

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	非行防止対策の推進に要する経費	会計	款	項	目	多額
		一般	10	4	5	経費
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	135青少年の健全育成	担当課室長	岩松 昌弘			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価の掲げた内容	関係機関と連携し、街頭パトロール、子ども達や保護者からの相談受け付け、「かまがや83+運動」の推進などを重点として活動する。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	関係機関と連携し、街頭パトロール、子ども達や保護者からの相談受け付け、「こども110番の家」の設置の推進などを重点として活動する。
②①に基づく取組み結果	地域での見守り活動への意識の高揚が図られた結果、「子ども安全メール」の配信件数が前年比で17件の減となった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の青少年	意図(対象をどうするのか)	①非行の早期発見、早期指導により青少年の非行を防止する。 ②速やかに情報を発信し、青少年の安全を確保する。
②事務事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の非行防止を図る。 子ども達の安全確保を図るため、子ども安全メールを発信する。 			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生による殺人事件の発生等、犯罪、犯行の低年齢化が進んでいる反面、小中学生が犯罪被害者となる事件が数多く発生している。 子ども安全メールの発信に伴う情報提供の迅速化や、「こども110番の家」の増設の要望がある。 			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	各種会議及び行事において「かまがや83+運動」、「こども110番の家」についての啓発を行った。地域での見守り活動への意識の高揚が図られた結果、「子ども安全メール」の配信件数が前年比で17件の減となった。					
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i	子ども安全メール登録者数	5,528	5,471	5,505人	業務取得
	ii	地域見守り活動従事者	1,405	1,397	1,278人	業務取得
iii						
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)	6,475	6,199	金額(千円)			9,468
	国支出金(千円)		95	センター運営協議会委員報酬		
	県支出金(千円)	3,543	541	青少年補導員報償		
	市債その他(千円)		199	センター所報「緑の子」印刷		
	一般財源(千円)	2,932	176	青少年補導員連絡協議会補助金		
				9,468		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後、ますます低年齢層による非行が増加するとともに、犯罪被害者となるケースも増えるものと思われる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	家庭、学校、地域又は関係機関との連携を図りながら、補導活動への協力や、子ども達の安全に関心を持ってもらうなど、地域ぐるみで子ども達を見守り、子ども達が心身ともに安全な生活を送れる環境整備を継続して実施していく必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H30からの繰越	
		H30⇒R1繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和2年度への繰越額(単位:千円)				

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	青少年の社会参加・体験活動の機会づくりに要する経費	会計	款	項	目	多額経費
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	一般	10	4	1	
施策	135青少年の健全育成	担当課室	生涯学習推進課			
		担当課室長	岩松 昌弘			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	各団体の支援者や、行事への参加者を増加させるため、学校や保護者等に対する広報に努める。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	引き続き、各団体の支援者や、行事への参加者を増加させるため、学校や保護者等に対する広報に努める。
②①に基づく取り組み結果	イベントの参加者は、H30が前年度比23.6%減だったところ、R1については前年度比9.5%の減少だった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	青少年及び関係団体	意図(対象をどうするのか)	青少年健全育成及び団体の活性化
②事務事業の概要	青少年への自然体験・社会体験の機会提供及び地域ボランティア、関係団体の活動支援			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	家庭状況の変化等で青少年の異年齢交流、自然及び社会体験等の社会形成に必要な機会が減少し、その機会を事業として求めるニーズは年々高まっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	元気っ子ゼミナールでは、那須甲子自然の家における宿泊及び自然体験を含め、様々な活動を通じて異年齢交流や自然及び社会体験をすることができた。また、各種イベントを通じ地域の様々な世代で子ども達を見守り育てる意識づけができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	元気っ子ゼミナール参加者数	60	60	60	人	業務取得
	ii	成人の日記念行事実行委員会議数	19	12	14	回	業務取得
	iii	各団体活動数	147	122	118	回	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算		
事業費(千円)	6,033	5,681	金額(千円)	内容	10,850		
国支出金(千円)			1,012	成人式会場設営			
県支出金(千円)	235	225	265	成人式記念行事			
市債その他(千円)			2,398	青少年教育関係			
一般財源(千円)	5,798	5,456	257	土幌町交流事業	10,850		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	社会のモラルが多様化する中で、学校・家庭以外でも地域全体の教育力での青少年の育みが見直される中、地域の支援者及び子ども会等団体参加者の減少が見られる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	団体等の参加者の減少や高齢化に伴い、イベントの開催やイベント参加者の減少が見られる。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H30からの繰越
		H30⇒R1繰越			
③達成状況		補正			現年分
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	令和2年度への繰越額(単位:千円)				